

研究科 /Graduate School	教職研究科
課程 /Program	専門職学位課程
専攻・コース等 /Major, Course	実践教育専攻
入試方式 /Admission Method	一般入試方式
試験科目 /Exam Subject	専門科目
実施年月日（試験日） /Exam Date	2025年7月20日
解答又は解答例及び出題意図 Answer or example of answer Intent of the question (試験問題自体を公開しない場合はその理由) (Reasons for not publishing exam questions)	
<p>【一般入試：1】</p> <p><採点時の観点></p> <p>【問1】</p> <p>次の3つの視点から述べられている。</p> <p>児童生徒……児童生徒の学力、興味・関心、家庭環境、発達段階などの実態を把握して、児童生徒の多様なニーズに対応するため。</p> <p>学校……学校組織や教職員の体制、授業の実態、校内文化などを把握して、各校の教育課題を効果的に改善するため。</p> <p>地域の実態……地域社会の歴史、産業、人材、課題などを把握して、地域資源を活用して特性を生かした教育を展開するため。</p> <p>【問2】</p> <p>例えば、国語で学んだ話し合いの能力が、学級会活動の話し合いで生かされるように、知識や技能を一教科にとどめるのではなく、実際の社会で活用できるものへと発展させるような教育実践や、「総合的な学習の時間」で「環境問題」をテーマにすると、理科では地球環境の仕組みを学び、社会では環境政策を考え、国語では関連する文章を読解することで多角的に問題を捉えさせる教育実践などが記されている。</p> <p><出題意図></p> <p>学習指導要領「総則」の内容を理解し、大きく変化する教育の中で活躍する教員として、新たな教育課題に対応していく力をもっているかを試す問題である。とりわけカリキュラム・マネジメントの視点を持ち、組織の中で協働して課題解決に導ける基本的力量があるかを見ようとした。</p>	

【一般入試：2】

【問1】

<採点時の観点>

以下の3つが書けること。

(1) 「いじめ」が起こる原因

- ・ いじめが起こる原因は一つではなく、複数の要因が絡み合って発生することが多い。
- ・ 主な原因は、不満やストレスのはげ口、学校やクラスの雰囲気、グループ内の力関係、SNS やネットの影響。

特にネット上の「いじめ」の未然防止は、日常の指導と情報モラル教育の両面からの取り組みが不可欠。

(2) ネット上の「いじめ」と未然防止するための日常的な具体的な取組

- ・ 児童生徒同士の信頼関係を築くことを重視し、日頃から対話を通じて互いの気持ちを尊重する姿勢を育成
- ・ 学級経営において、児童生徒が相談しやすい環境をつくるための定期的なアンケート調査や個別面談の実施
- ・ 授業や授業外において、安心して話せる場の設定
- ・ いじめの兆候を見逃さないために普段から複数の眼での注意深い観察

(3) ネット上の「いじめ」を未然防止するための情報モラル教育としての具体的な取組

- ・ ネット上の「いじめ」を未然に防ぐために、情報モラル教育の推進と充実
- ・ 情報モラル教育を通じて、インターネット上の発言や行動が他者に与える影響について考えさせ、責任ある利用の大切さの自覚
- ・ 学級・ホームルーム活動、道徳科の授業において、SNS の利用マナーや個人情報の取り扱い、悪意ある書き込み・匿名性の危険性の理解
- ・ 発信する言葉の責任について、加害・被害の両面からの意識の高揚
- ・ 保護者会等でネットいじめのリスクについて情報共有し、学校と家庭で一貫した対応を取るような働きかけ

(1) 「いじめ」が起こる原因を踏まえて、(2) ネット上の「いじめ」と未然防止するための日常的な具体的な取組を述べ、(3) ネット上の「いじめ」を未然防止するための情報モラル教育としての具体的な取組を記述することが最重要。

<出題意図>

現代的な教育課題としてのネット上の「いじめ」について、教員としてどのような見識と具体的な取組を理解できているかを試す問題である。

学級経営としての日常的な取組だけではなく、学級・ホームルーム活動という授業において、個々の児童生徒がネット上の「いじめ」の未然防止に向けてどのように意思決定をさせるのか、情報モラル教育の視点から考察できる力量があるかを見ようとした。

【問2】

<採点時の観点>

以下の3つが書けること。

(1) 多様な他者

- ・ 発達障害、精神疾患、健康、家庭環境、外国籍、LGBEQ+等の者を想定

(2) 多様な他者と関係が築けない原因

- ・ 多様性への知識不足、理解不足による偏見や差別
- ・ 多様な他者との関わり方の経験や体験不足

(3) 教科や特別活動等での具体的な指導のあり方

- ・ 道徳科において異文化理解や障害者への共感をテーマにした教材の活用(対話的な授業の展開)
- ・ 総合的な学習の時間、総合的な探究の時間では、地域の多様な人々との交流活動を通じて、実体験から他者理解を深める機会を設定
- ・ 特別活動では、異なる意見を尊重しながら協力するグループ活動を積極的に取り入れ、互いの違いを認め合う姿勢を育成

いずれの教科や特別活動等での具体的な指導においても、他者と協働することの意義を実感させるために、対話的な学習の場と機会を設定し、ICT 等も活用し多様な他者の想いや考えに触れ、協働的な学びを実現していくことが求められる。

<出題意図>

共生社会の実現に向けて、教員として、児童生徒が多様な価値観や背景を持つ他者と理解し合い、協働できる力を育む教育活動の重要性を意識し、そのための具体策を理解しているかを試す問題。

教科(道徳科)や総合的な学習の時間、総合的な探究の時間、特別活動のねらいや学習方法を理解し、各授業における具体的な展開を提案できる力量があるかを見ようとした。

【一般入試：3】

<解答又は解答例>

正解については『(小学校・中学校・高等学校)学習指導要領解説 総則編』、『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(中央教育審議会答申)』、『最新教育動向2025』(教育の未来を研究する会編集、明治図書出版)、『改訂版 教職用語辞典』(橋本美保編集代表、一藝社、2019年)、ネット等で見ることができるので確認をして欲しい。採点時に分量、内容とも不十分な場合は減点する。

<出題意図>

臨床教育分野、教育方法・学習科学分野、国際教育分野において重要である用語、最近話題になっている用語について理解しているかを試す問題である。学部での教職の学びを通して、教員としての基礎的知識として、各コースを選択するにあたり知っておいて欲しい用語を選んでいる。したがって、受験生の興味関心によって解答しやすいものと、そうでもないものがあると思われる。6つの中から3つを選択する形式であり、解答字数も多くないため、自信のあるものを選び、正確に答えることが求められる。

研究科 /Graduate School	教職研究科
課程 /Program	専門職学位課程
専攻・コース等 /Major, Course	実践教育専攻
入試方式 /Admission Method	一般入試方式
試験科目 /Exam Subject	専門科目
実施年月日（試験日） /Exam Date	2025年9月21日
解答又は解答例及び出題意図 Answer or example of answer Intent of the question (試験問題自体を公開しない場合はその理由) (Reasons for not publishing exam questions)	
<p>【一般入試：1】</p> <p><採点時の観点></p> <p>次の点について配慮され、適切に記述されているかを総合的に判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いじめの防止と早期発見の双方それぞれについて、十分言及されているか。 ・ 例示される取り組みが、いじめの防止及び早期発見につながるという、説得的な説明ができているか。 ・ 例示される取り組みが、すべての児童生徒を対象とする観点を含んでいるか。 ・ 例示される取り組みが、具体性を持ち、発達段階との適合性もある、実現可能なものであるか。 <p><出題意図></p> <p>いじめ防止対策推進法は、学校におけるいじめの防止対策という観点から、児童生徒の教育を受ける権利、人格の形成、さらには生命を守る重要な法律である。教師は、日常的な「いじめの防止及び早期発見」に努める必要がある。「いじめの防止及び早期発見」に関する知識と実践的構想力は、本研究科のアドミッションポリシーの文言にある「教員としての基礎的知識や指導力」「教科指導、生徒指導、学級経営、学校経営などの課題を組織の中で協働して解決に導ける基本的力量」に含まれると考えられ、出題をした。</p> <p>【一般入試：2】</p> <p>【問1】</p> <p><採点時の観点></p> <p>以下の3つのいずれかの観点から書くこと。（複数の観点を含んでもよい）</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 国もしくは地方教育委員会等の行政による制度的改革 (2) 学校単位による組織的改革 (3) 個人による意識改革 	

そのうえで、それぞれの観点に応じ、以下の点にも言及することを求めるものである。

- ・ 国や地方教育委員会が教員の担うべき業務とそうではない業務を明確にし、時間外労働時間の上限、教職調整額の見直し、外部委託等の改革を行う。
- ・ 学校内の業務分担の見直し、ICT 活用の促進、会議の効率化など組織レベルでの改革を行う
- ・ 仕事の優先順位、to do リストの作成、完璧主義からの脱却など個人レベルでの意識改革を行う。

<出題意図>

日本の教員の長時間労働の問題は、長年にわたって構造的に続いてきた深刻な課題である。国および地方公共団体、学校組織、教員個人がそれぞれの立場で三位一体となって改革に取り組む必要がある。学校現場の現状に則し、この課題にどのように対応していく力をもっているかを試す問題である。とりわけ、組織の中で課題解決に導ける知識と意欲があるかを見ようとした。

【問2】

<採点時の観点>

以下の3つのいずれかの観点から書くこと。(複数の観点を含んでもよい)

- (1) 授業における学習の質の向上
- (2) 児童生徒の情報活用能力の育成
- (3) 個別最適な学びの推進

そのうえで、それぞれの観点に応じ、以下の点にも言及することを求めるものである。

- ・ 電子黒板・プロジェクター：視覚的にわかりやすい授業展開が可能。
- ・ タブレット端末：調べ学習、意見共有、デジタル教材の活用。
- ・ 動画教材：主体的な学びの支援としてはそれぞれの学習進度に応じ、反転授業や復習（漢字練習、計算ドリル、英語発音練習など）に活用

<出題意図>

日本の学校教育の ICT 活用については GIGA スクール構想によって一人一台端末の整備が進んできた。今後は地域間や家庭間の格差を乗り越えて、学校教育の場でどのように効果的に学力を保障するツールとして活用できるかがポイントである。次代を担う教員として具体的な活用法の知識・スキルや活用しようとする意欲があるかを見ようとした。

【一般入試：3】

<解答又は解答例>

正解については『(小学校・中学校・高等学校) 学習指導要領解説 総則編』、『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して ～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～ (中央教育審議会答申)』、『最新教育動向 2025』(教育の未来を研究する会編集、明治図書出版)、『改訂版 教職用語辞典』(橋本美保編集代表、一藝社、2019年)、ネット等で見ることができるので確認をして欲しい。採点時に分量、内容とも不十分な場合は減点する。

<出題意図>

臨床教育分野、教育方法・学習科学分野、国際教育分野において重要である用語、最近話題になっている用語について理解しているかを試す問題である。学部での教職の学びを通して、教員としての基礎的知識として、各コースを選択するにあたり知っておいて欲しい用語を選んでいる。したがって、受験生の興味関心によって解答しやすいものと、そうでもないものがあると思われる。6つの中から3つを選択する形式であり、解答字数も多くないため、自信のあるものを選び、正確に答えることが求められる。

研究科 /Graduate School	教職研究科
課程 /Program	専門職学位課程
専攻・コース等 /Major, Course	実践教育専攻
入試方式 /Admission Method	社会人入試方式
試験科目 /Exam Subject	小論文
実施年月日（試験日） /Exam Date	2025年9月21日
解答又は解答例及び出題意図 Answer or example of answer Intent of the question (試験問題自体を公開しない場合はその理由) (Reasons for not publishing exam questions)	
<p><採点時の観点></p> <p>次の点について配慮され、適切に記述されているかを総合的に判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いじめの防止と早期発見の双方それぞれについて、十分言及されているか。 ・ 例示される取り組みが、いじめの防止及び早期発見につながるという、説得的な説明ができているか。 ・ 例示される取り組みが、すべての児童生徒を対象とする観点を含んでいるか。 ・ 例示される取り組みが、具体性を持ち、発達段階との適合性もある、実現可能なものであるか。 ・ これまでの教員としての経験が反映されているか。 ・ 学校全体としてのビジョンや、チーム学校としての動き方について言及されているか。 <p><出題意図></p> <p>いじめ防止対策推進法は、学校におけるいじめの防止対策という観点から、児童生徒の教育を受ける権利、人格の形成、さらには生命を守る重要な法律である。教師は、日常的な「いじめの防止及び早期発見」に努める必要がある。また、とくに社会人入試の対象となる現職教員であるならば、学校全体を見通す視点を持っていることも重要である。「いじめの防止及び早期発見」に関する知識と実践的構想力、学校全体を見通した視点は、本研究科のアドミッションポリシーの文言にある「教員としての基礎的知識や指導力」「教科指導、生徒指導、学級経営、学校経営などの課題を組織の中で協働して解決に導ける基本的力量」「教職経験の中で培った力量を、総合的にさらに高度化」に含まれると考えられ、出題をした。</p>	

研究科 /Graduate School	教職研究科
課程 /Program	専門職学位課程
専攻・コース等 /Major, Course	実践教育専攻
入試方式 /Admission Method	一般入試方式
試験科目 /Exam Subject	専門科目
実施年月日（試験日） /Exam Date	2025年11月16日
解答又は解答例及び出題意図 Answer or example of answer Intent of the question (試験問題自体を公開しない場合はその理由) (Reasons for not publishing exam questions)	
<p>【一般入試：1】</p> <p><採点時の観点></p> <p>以下の3つが書けること。</p> <p>(1) 不登校のきっかけや学校生活で辛いと感じた要因の低減・解消を推進する取り組み</p> <p>(2) 取り組みに関連して再確認すべき学校教育の本来持つ意義や価値</p> <p>(3) (2) の意義や価値を社会全体が共有できる機運を醸成していく姿勢</p> <p>そのうえで、以下の3点に言及することを求めるものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 不登校等の要因として、例えば、生徒指導提要（改訂版）に記載のある生物・心理・社会モデル等を参考に、多様な関連事象（発達特性、学習面の困難、いじめを含む人間関係等）が挙げられること。 ・ 近年制定された法律（障害者差別解消法、教育機会確保法、いじめ防止対策推進法）等に照らして、教師として遂行すべき法的義務を踏まえつつ、心理的安全性のある学級風土づくりをもとに、魅力ある学校としての意義や価値が伝わる教育活動を構想していること。 ・ 学年をはじめとするチーム学校（チーム支援）をベースに、取り組みを通して、保護者及び地域との連携と信頼関係の構築に努めること。 <p><出題意図></p> <p>多様な児童生徒のニーズを想定し、組織の中で協働して解決に導ける基本的力量を備えているかを問う出題である。生徒指導提要（改訂版）や関連答申・通知等の内容を理解し、新たな教育課題に対応していく力を身につけようとしているか、教科指導や生徒指導、学級経営等において、可能な取り組みを具体的に例示できるかを見ようとした。</p>	

【一般入試：2】

【問1】

<採点時の観点>

以下の点が書けること。

- (1) 時代の変化を前向きに受け止め、主体性に基づいて自律的に学ぶ姿
- (2) 時代の変化に対応した資質・能力を身に付けるために、最新の知識・技能を学び続ける姿
- (3) 個別最適な学びの提供、校内研修等の教師同士の学び合いなどを通じた協働的な学びの機会をもつ姿

<出題意図>

学校教育を取り巻く環境の変化を踏まえ、「教職に対する強い情熱」（教師の仕事に対する使命感や誇り、子どもに対する愛情や責任感）「教育の専門家としての確かな力量」（子ども理解力、児童・生徒指導力、集団指導の力、学級づくりの力、学習指導・授業づくりの力、教材解釈の力）「総合的な人間力」（豊かな人間性や社会性、常識と教養、礼儀作法をはじめ対人関係能力、コミュニケーション能力などの人格的資質、教職員全体と同僚として協力していくこと）などを教職生涯を通じて学び続け、子ども一人一人の学びを最大限に引き出し、主体的な学びを支援する伴走者としての役割を果たすことが教師と求められていることを理解しているかをみようとした。

【問2】

<採点時の観点>

今日的課題かつ以下が書けること。

- (1) 知識及び技能の基礎：基礎的な知識や技能を身に付けること
- (2) 思考力、判断力、表現力等の基礎：問題を発見し、解決策を考えるための思考力や、他者とコミュニケーションするための表現力を身に付けること
- (3) 学びに向かう力、人間性等：自ら学び、社会に貢献するための人間性や態度を育むこと

<出題意図>

これからの未曾有の激しい変化が予想される社会においては、一人一人が困難な状況に立ち向かうことが求められる。そのために教育は、個性を発揮し、主体的・創造的に生き、未来を切り開くたくましい人間の育成を目指し、直面する課題を乗り越えて生涯にわたり学び続ける力をはぐくむことが必要である。

このために子どもたちに求められる学力は、知識や技能はもちろんのこと、これに加えて、学ぶ意欲や、自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問

題を解決する資質や能力等までを含めたものである。また、個性を生かす教育の中ではなくむくことも肝要である。子どもたちの学力の質を高めていくという視点のもと、知識や技能を剥落させることなく自分の身に付いたものとする、それを実生活で生きて働く力とする、思考力・判断力・表現力や学ぶ意欲などを高める等の観点のもと確かな学力の育成に向けて創意工夫を生かした指導を行う知識と意欲があるかをみようとした。

【一般入試：3】

<解答又は解答例>

正解については『(小学校・中学校・高等学校) 学習指導要領解説 総則編』、『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して ～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～ (中央教育審議会答申)』、『最新教育動向 2025』(教育の未来を研究する会編集、明治図書出版)、『改訂版 教職用語辞典』(橋本美保編集代表、一藝社、2019年)、ネット等で見るので確認をして欲しい。採点時に分量、内容とも不十分な場合は減点する。

<出題意図>

臨床教育分野、教育方法・学習科学分野、国際教育分野において重要である用語、最近話題になっている用語について理解しているかを試す問題である。学部での教職の学びを通して、教員としての基礎的知識として、各コースを選択するにあたり知っておいて欲しい用語を選んでいる。したがって、受験生の興味関心によって解答しやすいものと、そうでもないものがあると思われる。6つの中から3つを選択する形式であり、解答字数も多くないため、自信のあるものを選び、正確に答えることが求められる。

研究科 /Graduate School	教職研究科
課程 /Program	専門職学位課程
専攻・コース等 /Major, Course	実践教育専攻
入試方式 /Admission Method	社会人入試方式
試験科目 /Exam Subject	小論文
実施年月日（試験日） /Exam Date	2025年11月16日
解答又は解答例及び出題意図 Answer or example of answer Intent of the question （試験問題自体を公開しない場合はその理由） (Reasons for not publishing exam questions)	
<p><採点時の観点></p> <p>以下の3つが書けること。</p> <p>(1) 不登校のきっかけや学校生活で辛いと感じた要因の低減・解消を推進する取り組み</p> <p>(2) 取り組みに関連して再確認すべき学校教育の本来持つ意義や価値</p> <p>(3) (2)の意義や価値を社会全体が共有できる機運を醸成していく取り組み</p> <p>そのうえで、以下の3点に言及することを求めるものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 不登校等の要因として、例えば、生徒指導提要（改訂版）に記載のある生物・心理・社会モデル等を参考に、多様な関連事象（発達特性、学習面の困難、いじめを含む人間関係等）が挙げられること。 ・ 近年制定された法律（障害者差別解消法、教育機会確保法、いじめ防止対策推進法）等に照らして、教師として遂行すべき法的義務を踏まえつつ、心理的安全性のある学級風土・学校風土づくりをもとに、魅力ある学校としての意義や価値が伝わる教育活動を構想していること。 ・ 多職種連携・協働に基づくチーム学校（チーム支援）のマネジメントに向けて、保護者及び地域との連携に努めること。 <p><出題意図></p> <p>多様な児童生徒のニーズを想定し、組織の中で協働して解決に導ける基本的力量を備えているかを問う出題である。生徒指導提要（改訂版）や関連答申・通知等の内容を理解し、新たな教育課題に対応していく力を身につけようとしているか、教科指導や生徒指導、学級経営・学校経営等において、可能な取り組みを具体的に例示できるかを見ようとした。</p>	

研究科 /Graduate School	教職研究科
課程 /Program	専門職学位課程
専攻・コース等 /Major, Course	実践教育専攻
入試方式 /Admission Method	一般入試方式
試験科目 /Exam Subject	専門科目
実施年月日（試験日） /Exam Date	2026年2月1日
解答又は解答例及び出題意図 Answer or example of answer Intent of the question （試験問題自体を公開しない場合はその理由） (Reasons for not publishing exam questions)	

【一般入試：1】

<採点時の観点>

以下の点について、適切に記述されていること。

- (1) 各教科を学ぶ意義や目標について、正確に理解し、記述されている。
- (2) 各教科の学習内容として、適切な学習内容を事例として取り上げている。
- (3) 各教科の基本的な授業づくり（単元構想）の方法を踏まえた記述となっている。
- (4) 各教科で「習得した知識」を、適切な「現実の事象」と関連付けて説明されている。
- (5) 持続可能な社会の創り手の育成、主体的・対話的で深い学び、社会に開かれた教育課程など、関連する事項に触れられていると望ましい。

<出題意図>

現在の初等中等教育の抱える課題として指摘されている、「習得した知識を現実の事象と関連付けて理解する」ことについて、自らが担当する教科の中で、当該課題を克服する授業を構想する基本的力量がそなわっているかを問う問題である。また、各教科を学ぶ意義や教科目標、適切な学習内容など、「各教科の指導法」関連の教職科目において学修する基本的知識を獲得しているかを確認する問題である。

【一般入試：2】

【問1】

<採点時の観点>

以下の点について、適切に記述されていること。

危機管理に対する基本的理解ができているか。

「危機管理」を防止・予防、早期発見、発生時対応、事後対応（再発防止）など、単なる「事故対応」に限定せず、包括的に捉えているか。

また、児童生徒の安全（身体的）と安心（心理的・社会的）の両面に言及できているか。

これらのことを以下の視点で述べられているか。

- (1) リスクマネジメント（予防的危機管理）の視点
- (2) クライシスマネジメント（事後対応的危機管理）の視点
- (3) 学校危機マニュアルの策定（研修や訓練の実施）の視点

<出題意図>

「安全・安心」を教育の基盤として捉えることが重要で、学力向上や指導技術以前に、教育活動は安全・安心な環境があってこそ成立するという認識を持っているかを問い、危機管理を「経験論」だけでなく、構造的・多面的に考えようとする姿勢が必要で、学校全体の課題として危機管理を捉え、改善に関与しようとする視野の広さがあるかを問う問題である。

【問2】

<採点時の観点>

以下の点について、適切に記述されていること。

- (1) 「個別最適な学び」「協働的な学び」の概念を正確に理解しているか。
- (2) 両者を「対立」ではなく「一体的」に捉えているか。
- (3) 教員としての具体的な視点・工夫がなされているか。
- (4) 学校現場での実現可能性を意識し、現実的課題を踏まえた視点があるか。

<出題意図>

「個別最適な学び」「協働的な学び」は、学習指導要領や GIGA スクール構想等で示される中核的な概念である。このことを理解したうえで、現代的教育課題を教員の実践としてどう捉え、理論と実践を往還しながら、教員としてどのように授業・学級を設計し、現実的に実現しようとしているかを、自分の言葉で論理的に説明できるかを問う問題である。

【一般入試：3】

<解答又は解答例>

正解については『(小学校・中学校・高等学校) 学習指導要領解説 総則編』、『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して ～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～ (中央教育審議会答申)』、『最新教育動向 2025』(教育の未来を研究する会編集、明治図書出版)、『改訂版 教職用語辞典』(橋本美保編集代表、

一藝社、2019年)、ネット等で見ることができるので確認をして欲しい。採点時に分量、内容とも不十分な場合は減点する。

<出題意図>

臨床教育分野、教育方法・学習科学分野、国際教育分野において重要である用語、最近話題になっている用語について理解しているかを試す問題である。学部での教職の学びを通して、教員としての基礎的知識として、各コースを選択するにあたり知っておいて欲しい用語を選んでいる。したがって、受験生の興味関心によって解答しやすいものと、そうでもないものがあると思われる。6つの中から3つを選択する形式であり、解答字数も多くないため、自信のあるものを選び、正確に答えることが求められる。

研究科 /Graduate School	教職研究科
課程 /Program	専門職学位課程
専攻・コース等 /Major, Course	実践教育専攻
入試方式 /Admission Method	社会人入試方式
試験科目 /Exam Subject	小論文
実施年月日（試験日） /Exam Date	2026年2月1日
解答又は解答例及び出題意図 Answer or example of answer Intent of the question (試験問題自体を公開しない場合はその理由) (Reasons for not publishing exam questions)	
<p><採点時の観点></p> <p>以下の点について、適切に記述されていること。</p> <p>(1) 「子供の社会参画の意識」を醸成することの意味を正確に捉えた記述であるか。</p> <p>(2) 持続可能な社会の創り手の育成、主体的・対話的で深い学び、教科横断的な学び、探究的な学び、社会に開かれた教育課程、カリキュラム・マネジメントなど、現行学習指導要領のポイントについて適切に記述されているか（これらすべてに触れられている必要はない）。</p> <p>(3) 勤務経験を踏まえた記述となっているか。</p> <p>(4) 具体的に例示される取り組みが、学校現場の実態を踏まえたものであり、実現可能性のある構想がなされているか。</p> <p>(5) 学校の教育課程全体を俯瞰した視点からの取り組みが構想されているか。</p> <p><出題意図></p> <p>現在の初等中等教育の抱える課題として指摘されている、「子供の社会参画の意識」の醸成に関して、その意味や現行学習指導要領の理念などを正確に捉えながら、当該課題を克服するための学校全体での取り組みを構想する力量がそなわっているかを問う問題である。また、勤務経験を踏まえつつ、学校全体の教育に目を配りながら、実践可能な取り組みを構想できるかを問い、ミドルリーダーとしての基本的姿勢が備わっているかを確認する問題である。</p>	